

# 研究員 の眼

## AI 関連ファンドの人気は短命かも？ ～2018年5月の投信動向～

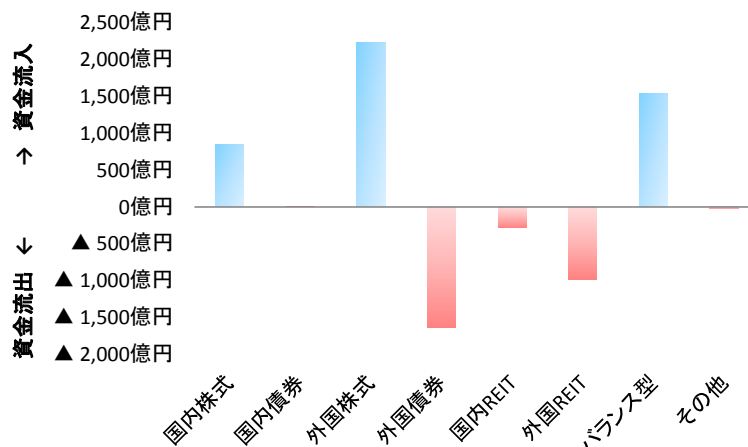
金融研究部 研究員 前山 裕亮  
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

### バランス型の資金流入が増加

2018年5月の国内公募追加型投信（ETFを除く）の推計資金流出入をみると、国内株式、外国株式、バランス型への資金流入が続いた【図表1】。流入金額は、国内株式が900億円弱、外国株式が2,000億円強であり、4月と同程度の流入であった。バランス型については、資金流入が1,500億円を超え、4月の900億円弱から流入額が増加した。その一方で、外国債券、国内REIT、外国REITからは資金流出が続いた。特に、外国債券からは1,500億円を超える資金流出があった。

バランス型の資金流入増加の要因の一つには、隔月分配のファンドの人気が高まったことが挙げられる。5月は大型の新規設定ファンドが無かったにもかかわらず、バランス型の隔月分配ファンドには300億円を超える資金流入があり、4月の200億円から増加した。隔月分配だけでなく、毎月分配のバランス型ファンドへも、2ファンドを中心に350億円程度の資金流入があった【図表2：赤字】。外国債券や外国REITでは毎月分配型ファンドの大型解約が続いているが、バランス型の毎月、隔月分配ファンドへの資金流入は継続しており、高頻度の分配金へのニーズは引き続き高いといえるだろう。

【図表1】2018年5月の国内公募追加型投信の推計資金流出入



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者集計。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】2018年5月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社	5月の推計純流入	純資産5月末時点
1位	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント	439 億円	1,029 億円
2位	日本厳選割安株ファンド2018-04(線上償還条件付)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	227 億円	415 億円
3位	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	201 億円	3,107 億円
4位	<b>三井住友・げんきシニアライフ・オープン</b>	三井住友アセットマネジメント	179 億円	768 億円
5位	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	161 億円	318 億円
6位	UBS中国新時代株式ファンド(年1回決算型)	UBSアセット・マネジメント	161 億円	535 億円
7位	<b>スマート・ファイブ(毎月決算型)</b>	日興アセットマネジメント	142 億円	2,389 億円
8位	新興国ハイクオリティ成長株式ファンド	アセットマネジメントOne	137 億円	2,494 億円
9位	<b>東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)</b>	東京海上アセットマネジメント	133 億円	3,845 億円
10位	<b>JPMザ・ジャパン(年4回決算型)</b>	JPモルガン・アセット・マネジメント	132 億円	1,224 億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

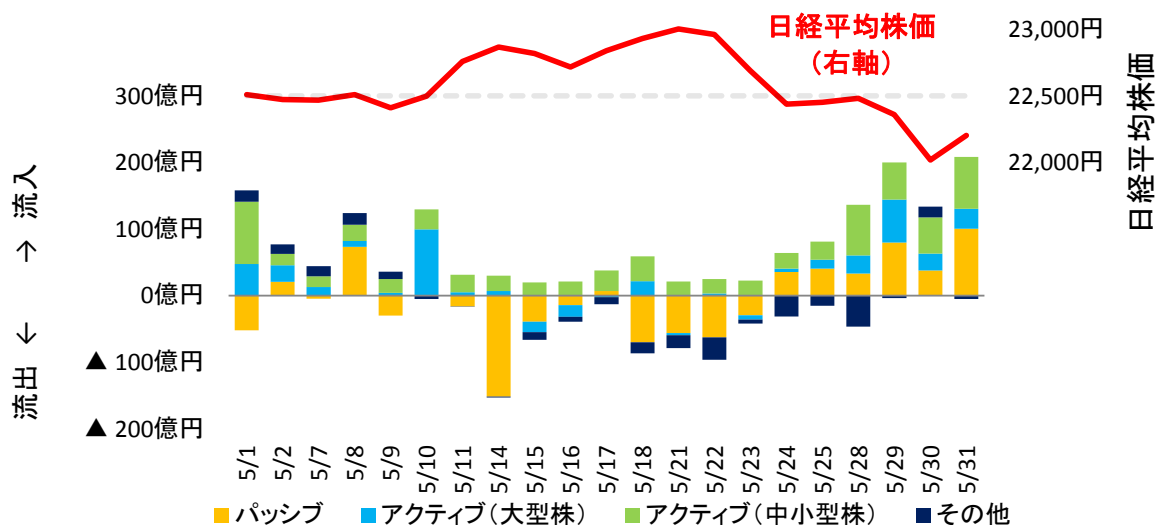
## 日経平均 22,500 円が意識される国内株式

国内株式の 900 億円弱の資金流入のうち、750 億円程度が中小型株アクティブ・ファンドへの資金流入であり、引き続き中小型株アクティブ・ファンドの人気が高かった。5 月は昨年秋の設定以来、大規模な資金流入が続いている「JPM ザ・ジャパン(年 4 回決算型)」に加えて、「三井住友・げんきシニアライフ・オープン」も 100 億円以上の資金を集めた【図表 2 : 青字】。「三井住友・げんきシニアライフ・オープン」は 2000 年に設定されたいわば古株ファンドである。4 月に格付投資情報センター社が毎年行っている調査で表彰されたことがきっかけに、投資家の注目が集まったものと思われる。

また、5 月はパッシブ・ファンドからの資金流出が 100 億円と 4 月の 140 億円から比べてやや鈍化した。ただし、日経平均が 22,500 円を超えた 9 日から 23 日にかけては、資金流出が顕著であった【図表 3 : 黄棒】。特に 14 日には 1 日で 150 億円以上の資金が流出し、9 日から 23 日までの累計で 450 億円を超える流出した。その一方で、株価が下落して日経平均株価が再び 22,500 円を下回った 24 日以降は一転して資金が流入し、流入金額は累計で 300 億円を超えた。

パッシブ・ファンドの資金フローから、5 月は「日経平均株価 22,500 円」が多くの投資家に意識されていたことが分かる。日経平均株価が 22,500 円を超える水準では積極的に購入する投資家は少なく、逆に利益確定売りに動く投資家が多かったようだ。

【図表3】国内株式ファンドの日次推計資金流出入と日経平均株価の推移



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。

## 高パフォーマンスでも関心が薄らぐ AI 関連ファンド

5月にパフォーマンスが良好であったファンドを見ると、外国 REIT のファンドが総じて良好であった。5月は後半に欧州の政治問題から投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国の長期金利が低下した。この米国の金利低下を好感して、米国 REIT が大きく上昇したためである。特に、ヘルスケア REIT の上昇が大きく、5月の収益率は9.5%となった【図表4：赤字】。

その他、米国株式は市場全体で見ると小幅な上昇であったが、一部のハイテク関連株や中小型株などは大きく上昇したため、それらの恩恵を享受できたテーマ株ファンドやアクティブ・ファンドも高パフォーマンスであった。「グローバル AI ファンド」【図表4：青字】に代表される「AI（人工知能）」に関連するテクノロジー系のテーマ株ファンド（ここでは単純にファンド名に「AI」が含まれているファンドとする。以後、AI 関連ファンド）の多くが5%を超える収益率を上げ、総じて好調であった。

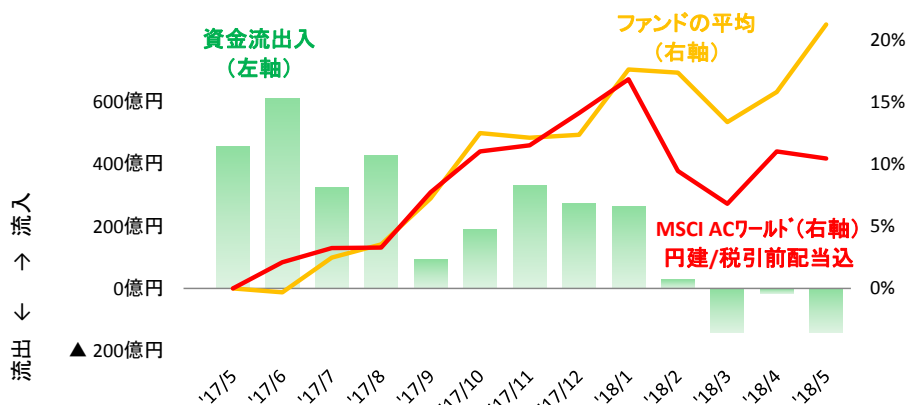
「AI」は、2017年に人気を集めたテーマであった。足元1年のAI関連ファンドの資金動向を見ると、大型の新規設定が無かったにもかかわらず2018年1月までは資金流入が続いていた。しかし、2月に資金流入が止まり、3月以降は流出基調となった。5月もパフォーマンスは良好であったが、140億円ほど資金流出した。2月以降のAI関連ファンドの資金フローから見ると、投資家の関心はAI関連ファンドから離れていることがうかがえる。「AI」はこれから実社会に浸透していくテクノロジーであるため、息の長い投資テーマになると思われたが、投資家の関心は移ろいやすく、AI関連ファンドのブームは思ったよりも短いかもしれない。

【図表4】2018年5月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	5月の収益率	過去1年収益率	純資産 5月末時点
1位 東京海上・グローバルヘルスケアREITオープン(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	9.5%	-10.9%	20億円
2位 企業価値成長小型株ファンド	アセットマネジメントOne	8.8%	42.2%	76億円
3位 厳選ジャパン	アセットマネジメントOne	8.1%	---	28億円
4位 IPOリサーチ・オープン	三菱UFJ国際投信	7.8%	---	112億円
5位 USバイオ・ベンチャー(限定追加型)	ペイビュー・アセット・マネジメント	7.1%	58.8%	108億円
6位 グローバルAIファンド(為替ヘッジあり)	三井住友アセットマネジメント	7.0%	23.5%	481億円
7位 世界eコマース関連株式オープン	アセットマネジメントOne	7.0%	---	507億円
8位 ブラックロック米国小型成長株式オープンAコース(為替ヘッジなし)	ブラックロック・ジャパン	6.7%	21.8%	21億円
9位 グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(限定為替ヘッジ)	アセットマネジメントOne	6.6%	28.1%	707億円
10位 明治安田米国中小型成長株式ファンド	明治安田アセットマネジメント	6.6%	29.0%	55億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。2018年5月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

【図表5】AI関連ファンドの資金流入と累積収益率の推移



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。2018年5月の資金流入は推計値。外国株式のテーマ株ファンドで名前に「AI」を含む10ファンドを集計。収益率は月初純資産加重平均値。

---

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。